

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

## 腎盂・尿管癌診療ガイドライン

日本泌尿器科学会編 腎盂・尿管癌診療ガイドライン作成委員会（委員長：大家基嗣 慶應義塾大学医学部泌尿器科教授）

メディカルレビュー社、2014年4月1日 第1版第1刷発行

### ■1 アリストロキア酸を含む漢方薬草

疾患：

漢方薬腎症（副作用）

引用など：

- 1) Grollman AP, Shibutani S, Moriya M, et al. Aristolochic acid and the etiology of endemic (Balkan) nephropathy. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* 2007; 104: 12129-34.
- 2) Jelakovic B, Karanovic S, Vukovic-Lela I, et al. Aristolactam-DNA adducts are a biomarker of environmental exposure to aristolochic acid. *Kidney International* 2012; 81: 559-67.
- 3) Chen CH, Dickman KG, Moriya M, et al. Aristolochic acid-associated urothelial cancer in Taiwan. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* 2012; 109: 8241-6.
- 4) Nortier JL, Martinez MC, Schmeiser HH, et al. Urothelial carcinoma associated with the use of a Chinese herb (*Aristolochia fangchi*). *The New England Journal of Medicine* 2000; 342: 1686-92.
- 5) Laing C, Hamour S, Sheaff M, Miller R, et al. Chinese herbal uropathy and nephropathy. *Lancet* 2006; 368: 338.

副作用に関する記載ないしその要約：

『CQ1：喫煙を含め腎盂・尿管癌の危険因子にはどのようなものがあるか？』に対して、解説の項に下記の記載がある。

『アリストロキア酸を含む植物が生息するバルカン半島特有の風土病であるバルカン腎症や、台湾におけるアリストロキア酸を含む漢方薬草による漢方薬腎症が、腎盂・尿管癌の発

生に関連していることが示されている。漢方薬腎症については、国内で承認された生薬（木通、防己、細辛、木香）では問題とならないものの、渡航先での購入やネット販売による個人輸入の際に、アリストロキア酸の含有が疑われる生薬を用いた製剤を購入して服用する可能性があることから、注意喚起されている。』